企画監修／積水ハウス株式会社 総合住宅研究所

＃13 心地良さのためのインテリア術②
子どもだって楽しいインテリア

初めて自分の部屋をもらったときの、あの嬉しさを憶えていますか？
子ども心にも〝自分のお城〟という気持ちが膨らんで、好きなポスターを壁にピンナップしたり、大切なオモチャやぬいぐるみをどこに飾れば素敵だろうかと置き場所を考えたり……。
〝自分の物や自分の空間へのこだわり〟はすでに幼児期に現れますが、
その時期はちょうど色彩感覚や空間感覚が育つ時期なのです。
そこで今号は、子どもたちにもインテリア・コーディネートに参加させてあげましょうという提案。
インテリアに参加することで子どもは楽しみながら感覚を伸ばせるだけでなく、
〝自分の居どころ〟への愛着が湧きます。
それは、家族やわが家への愛情を育むことでもあるのです。

インテリアごころの芽生えは幼児期から！

〝自分の物や自分の空間へのこだわり〟が幼児期に出現するのは、ちょうどその頃、好奇心が旺盛で何でも自分でやってみたい時期だからです。大人になってから色彩感覚や空間感覚を一から身につけるのは大変ですが、幼児期以降なら遊びの延長で本人も楽しみながら学ぶことができます。

それらの能力はやがて、自分の着るものにこだわるように〝より自分らしく飾りたい、しつらえたい〟というインテリア行為に発展します。

じつは、インテリアで自分らしさを表現することは、芸術的な感性はもちろんのこと、空間認知力や空間構成力など、自己表現の中でも高度な能力が必要です。ですが、日本の学校ではインテリアについて学ぶ機会がありません。家庭でその素養を習得する絶好の機会が、自分の部屋のインテリア・コーディネートに参加させてあげることなのです。

自分の部屋を自分でインテリアすることで愛着が湧きますから、「もっと整えよう、いつも綺麗にしよう」というお片づけ・整理整頓の意欲・能力も身につけやすくなります。

ほんの一部でも自分がかかわった空間には、子どもでも愛着を抱きます。愛着がある空間に対しては、整理整頓やお片づけ、そうじなど、自発的に取り組みやすいのです。

「勉強しなさい」と言う前に、親子が対話しやすいインテリア！

でも、せっかく子ども部屋があっても、よくこんな声を耳にします。「勉強はリビングでばかり…」「学習机は荷物置き場みたい…」

実際、小学生の70％以上・中学生の約半数が、リビングやダイニングで勉強しているという調査データもあります（＊）。その理由は「わからないことを尋ねやすい」「さびしくない」「いろいろな話ができる」、親の皆さんも「目が届くから安心」「宿題などを見てあげやすい」「話しやすくて様子がわかる」という理由を挙げています。

ただ、リビングもダイニングも家族のくつろぎや食事を目的につくられる空間ですから、照明やテーブルの高さなどは学習に適していません。

そこで、たとえばリビングの一角に親子で一緒に利用できるデスクワークスペースやお絵描きできるウォールを設けるというアイデア。家族とコミュニケーションできる場での学習は楽しさや歓びを伴う体験となり、その積み重ねこそが子どもの知性の土台を形成してくれます。

やがて集中して勉強したい、ひとりで思索を深めたい年齢になれば、〝自分のお城〟での学習時間が自然と増えていくはずです。

＊積水ハウス 総合住宅研究所「住まいにおける子どもの居どころ調査」
（N=469）（2007年）

❶親子が対話しやすい「ファミリーステーション」。家事をしながら宿題を見てあげられ、お父さんやお母さんのワークデスク、趣味のデスクとしても活用できます。

❷今日あったことを絵や図にして伝えられる「ドラフトウォール（多機能ガラス黒板）」を、家族が集うリビングの壁にいかが？　コミュニケーション力だけでなく、自己表現力も養います。

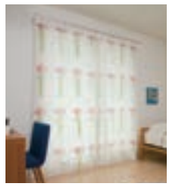
ワタシの、ボクの部屋。だから、自分で選びたい！

子ども部屋のインテリアを親子で一緒に考える場合、本人に選ばせてあげやすいアイテムがカーテンです。壁と床の仕様も今は色柄だけでなく機能もいろいろ揃っていますから、うまくアドバイスしながら「選ぶよろこび」を体験させてあげてください。

1 部屋の印象を左右する「カーテン」

面積が大きいカーテンは、最も空間の印象を左右するアイテム。色柄も楽しいものが揃っており、季節や成長に合わせて替えやすいのもメリットです。自宅で洗えるウォッシャブルや遮光、防火などの機能は、お父さんやお母さんがしっかりチェックしてあげてください。とくに遮光機能が高すぎると、朝になっても目覚めにくい部屋になりますからご注意を。

カラフルな色や可愛い刺繍の入ったタイプなど、選ぶことを楽しみやすいカーテン。気軽に替えやすいので、壁の色とのコーディネートも遊んでみてはいかが？



2 アクセント使いが楽しい「壁クロス」

壁クロスも面積が大きく、部屋の印象を左右するアイテムです。ですが壁クロスはひんぱんに模様替えするのは大変ですから、壁の一面だけをアクセントとして楽しむ方法がおすすめ。リフォームをする機会に、子ども自身の意志で選ばせてあげてはいかがでしょう。ポイントは、あまり個性的な色柄や大柄なものは避けること。目を惹くのでつい選んでしまいがちですが、飽きがきやすいのです。

パステル調の優しい色でもアクセントにすることでコントラストがつき、インテリアが見違えます。

3 心地良さへの感性を磨く「床」

幼い頃から自然素材のぬくもりを肌で感じて育って欲しい、そう願うお父さん・お母さんは多いと思います。ひとくちに「木」といってもさまざまな色柄、風合い、感触がありますから、子どもたちと一緒にサンプルに触れて違いを学んでみてはいかがでしょう。存分に走り回りたい時期の子どもなら、フローリングの上に部分的に敷けるカーペットもおすすめです。色柄を選ぶ楽しみがあるうえ、防音効果も期待でき、インテリアの雰囲気を気軽に変えることができます。

大人よりもずっと床に近い生活を送るのが、子どもたち。自然素材の床は手や足に心地良いだけでなく、変化に富んだ木の模様や匂いなど、五感ですこやかな刺激を受けることができます。

転倒時の衝撃が軽い「ファブリックフロア」。色柄のバリエーションがたくさんあるので、フローリングの上に部分的に敷いてみてはいかが？　じつは、空気中に浮遊するホコリも少ないのです。

and more お片づけしやすいインテリア！

子どもがある日、自分の物を他の子が使うのを嫌がったら、「お片づけ」の習慣を身につけさせるチャンス。というのも、それは物の所有と秩序にこだわるという成長の証だからです。

“いつもと同じであること”に安心感を覚えますから、出した物をいつもの、元の場所に戻すようにリードしてあげてください。

定位置やルールづくりがまだ難しい年齢なら家族がお手本を示してあげると、子どもたちは自然にそれを楽しんで行なうようになります。

物と空間についての子どもの特徴

出典：積水ハウス 総合住宅研究所
「生活リテラシーbook 005 子どもの生きる力を育む家」

子ども部屋の収納は、ハンガーパイプや棚板の高さを調整可能なものにしてあげましょう。手が届く位置であれば、自分の物を管理したいという欲求が芽生えやすくなります。

子どもの物が集まりやすいリビングに、専用のボックス収納を。トビラに名前をつけてあげると自分の収納という意識が高まり、お片づけもより積極的になります。